

介護あんしん 相談員だより

第42号 令和元年9月発行
発行：鳥栖地区広域市町村圏組合
(介護保険課 地域支援係)
連絡先：0942-81-3111

介護あんしん相談員は橋渡しをします！

施設に入居していると、ちょっとした不満や不安があっても、直接スタッフに言うことを遠慮してしまうことがあります。介護あんしん相談員は、ご本人やそのご家族が施設職員に直接は言いにくいことをお聞きしたり、客観的な目で見えて気づいたりした点を施設側に伝えて問題の解決をはかります。



利用者様や介護あんしん相談員の声からいくつかご紹介します
(令和元年6月・7月)



～介護あんしん相談員の声より～

相談員：M様はホールで楽しそうに刺繍をされていました。

刺繍台は手作りなのですか？

施設：利用者様は右片麻痺がありますが、職員が手作りで土台を作り、麻痺があっても好きな時間に出来るようにしています。

【鳥栖地区広域市町村圏組合より】



この刺繍台は、利用者様が以前から刺繍が大変好きだと聞いて、椅子に腰掛けても左手で作業しやすいように、職員さんが利用者様と相談しながら手作りされたそうです。

腕に麻痺があったら、刺繍等の細かい作業はかなり高度な作業になると思います。

利用者様は、刺繍は諦めるしかないと考えられていたかもしれません。

しかし、職員さんが利用者様の「やりたいこと」「楽しめること」などの気持ちを良く理解され、その希望を叶えるために形にして実行されたことは、本当に素晴らしいことだと感じました。

このように、利用者様は今までどのような生活をされていたのか、何をしている時が楽しいのか、逆にどのようなことが嫌なのかをよく知ることは、側で支える職員さんにとって、利用者様の懐に入っていくヒントになるのではないのでしょうか。今後ともよろしくお願いたします。



～ご家族様の声より～

ご家族：以前は施設に毎日来ていましたが、今は週3回来ています。
施設：ご家族のために、施設側から提案して週3回になりました。

【鳥栖地区広域市町村圏組合より】



こちらのご家族様は、利用者様の気持ちを想い、忙しい中でも毎日一目だけでも会いに来ようと考えられていたそうです。とても真面目で心優しいご家族様なのでしょうね。仕事の途中で時間を作って来られたりと、施設側ではご家族様はストレスを抱えイライラされているように見受けられたそうです。

施設としても、ご家族様に元気でいていただかないと、利用者様が安心して施設に入所できなくなりますね。そのため、ご家族様に休憩していただくために来所を毎日から週3回へ変更することを提案されたそうです。訪問回数を減らすことで、ご家族のストレスが軽減され、利用者様に対してもやわらかく接することができるようになったそうです。

ご家族様も無理し過ぎず、時には施設に頼ることがあっても良いと思います。

施設がご家族様に対しても寄り添って支援を行うことで、結果的に利用者様も含めた良い環境をつくることができたようです。



～利用者様の声より～

利用者：ここは飲み食いも自由にできない。逃げ出したいが出られない。
外を散歩させて欲しい。

施設：散歩に数回行ったが、施設の中に入るのを頑なに拒まれ、1時間位かけてやっと室内に入られることが続き、散歩は止めて様子をみています。

【鳥栖地区広域市町村圏組合より】



施設のスタッフさんがお忙しい中利用者様への対応で苦慮されているお姿が想像できます。しかし、利用者様が相談員に話された気持ちも理解できる気がしました。

利用者様は施設に入る前まで、いつでも好きな時に外に出て、好きな時に帰って来て、自分の判断で食べ物を選んで食べるといった生活を長く続けて来られたと思います。そのため、急に生活の習慣を変えるということは難しいのではないのでしょうか。

施設側も利用者様の意向・要望についてはしっかり把握されており、ご家族様も外出支援など、できる限りのご支援をされているそうです。また、施設の職員さんが行われた個別リハビリを利用者様が気に入られ、最近は状態が落ち着かれています。



鳥栖広域 相談員だより

検索

鳥栖地区広域市町村圏組合のホームページで、今までの「介護あんしん相談員だより」を閲覧することができます。ご利用ください。